

あいみ富有の里

平成30年 3月 1日発行
発行元
あいみ富有の里地域振興協議会
広報誌編集委員会
問い合わせ先 64-3504
fuyuu350464@yahoo.co.jp

～広報誌 第114号～

合同いきいきサロン交流会

地域内で活動をしている9団体の交流会が、2月4日「いこい荘」で開催された。

いきいきサロンは、一人暮らしや、家の中で過ごしがちな高齢者等と地域住民が公民館等に集い、生きがいきり・仲間づくりを通じて楽しい生活を送ることを目的にして組織されたもの。当日は、「山陰笑いヨガ」の講師を招き、大笑い・リラックス効果の運動や、「出張！まちの保健室」が開催され参加者全員で親睦を図り、楽しい一時を過ごした。(ふれあい部)



地域円卓会議を開催

2月15日(木)総合福祉センターいこい荘で、集落代表(区長)、行政(関係部局)、協議会事務局が参加し「地域円卓会議」を開催した。地域と行政が現状を理解し、お互いの役割を共有し、地域課題の解決に向けて具体的な施策・活動につなげていくことを目的にしたもの。今回は、人口(空き家)と農業をテーマにし意見・情報交換を行った。

人口(空き家)問題では、鳥取県暮らし支援課提供の集落創造シートにより、各集落毎の人口推移データを基に将来のシミュレーションが示された。全体的に人口減少対策に特効薬はなく、空き家に頼らず人口流失に歯止めをかける施策の必要性が認識された。(個々の集落の状況は資料により確認願いたい。)

農業関係では、昨年実施された「南部町農業の明日を考えるアンケート集計結果の暫定版から、就業年齢が60歳以上82%、後継者の有無では「いない世帯」が70%弱に達しており、このままでは農業が衰退してしまう。地域の基幹産業の維持・発展させるためには「集落営農」を真剣に検討する時期に来ていると痛感させられた。(事務局)

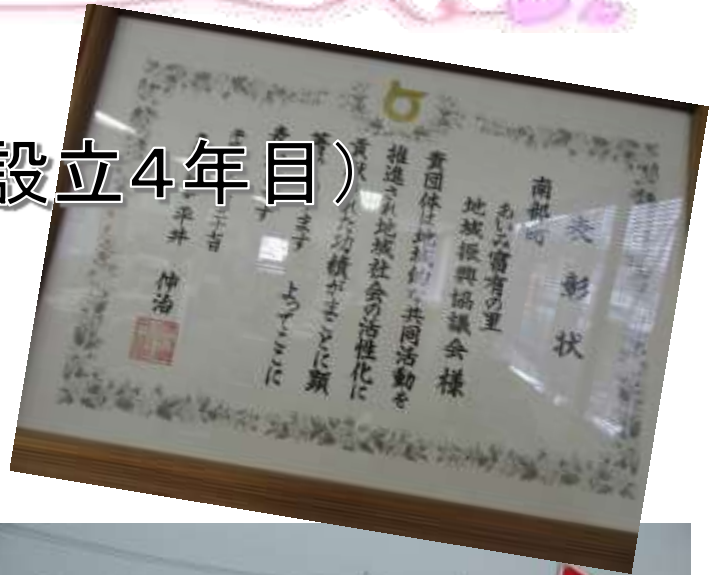


地域磨きは「土・水・風の人」のコラボレーションで！
土の人(地域を愛する頑固者)
水の人(地域を愛する改革派)
風の人(よそから来た行動派)

特集10年史(設立4年目)

<主な活動>

1. 農産物加工施設「えぶろん」指定管理受諾
2. 藤井副知事「えぶろん」を視察
3. 路線バス存続運動(バスフォーラム開催)
4. 「頑張る住民自治活動」県知事表彰を受ける



平井県知事を招き約230人参加



荒廃(遊休)農地再生への提案

近年、優良農地の耕作放棄地が増加し、農村の衰退化が顕著になってきている。原因は少子高齢化・農業の担い手不足であることは誰も認めるところだ。

各種補助金が廃止される中で、行政やJAに頼らず、地域団体(住民)が自ら創意工夫し、田舎の風景、農地保全に取り組む必要が求められてきている。

そこで協議会から、南部町の地域奨励作物(特産品)として、**エゴマ栽培**を提起したい。利点は①稲作と時期が重複しない②栽培が容易③水源が不要④経費が少ない⑤収益性が期待できる。ただし、年間2~3日の人的作業を要する。

協議会では、栽培のノウハウ、販売に関する助言・支援を行うこととしている。10人程度のグループ化を目指しませんか?興味のある方は、協議会まで申し出を。(事務局)



富有の風

地域は生産の場であると同時に生活の場。少子高齢化が進み農業の担い手も減少傾向にある。集落・村をどう守るかを真剣に考える時代となった。

条件の悪い中山間地域をどうするかが問われている中で、来年度から、米の直接支払交付金(7500円/10a)の廃止、地力増進作物、景観形成作物等の助成金も廃止。これでは専業農家優先の農地大規模化の政策で、しっかり農地を守ってきた兼業農家の切り捨てになる。

中山間地域では、経営感覚のある農業者が力をつけ、リーダーにならないと地域は守れそうにない。少子高齢化や担い手不足、低生産性といった多くの課題を解決するキーワードは「集落営農」にあるような気がする。(Y)

行事案内

★まちの保健室

日時:3月22日(木)9:30~

場所:総合福祉センターいこい荘

★小・中学校卒業証書授与式

中学校

日時:3月9日(金)10:00~

小学校

日時:3月16日(金)9:30~

◎地域交流拠点施設「愛称」募集

詳細は別紙チラシ参照

応募用紙は全戸配布...

事務局は同上に4月1日移転

